

8/4 (水)	限りなき前進	10:25	15:05	18:55	★トークショー 4日(水)14:15～ 風見章子さん、韓昌祐さん(關マルハン会長)
5 (木)	血槍富士	9:50	14:40	18:40	★トークショー 5日(木)13:50～ 尾形伸之介さん(俳優・殺陣師)
6 (金)	どたんば	11:50	16:40	20:40(終映22:30)	★トークショー 6日(金)18:00～ 淡島千景さん
7 (土)	大菩薩峠	9:55	14:00	18:50	★トークショー 7日(土)16:50～ 高千穂ひづるさん
8 (日)	酒と女と槍	12:05	16:10	21:00(終映22:40)	★トークショー 8日(日)13:40～ 有馬稲子さん
9 (月)	暴れん坊街道		12:50	17:40	★トークショー 9日(月)17:00～ 水谷八重子さん ※夕方以降の上映はありません。
10 (火)	黒田騒動	10:45	14:50	19:40(終映21:30)	★トークショー 10日(火)13:45～ 星美智子さん、入江若葉さん
11 (水)	森と湖のまつり	9:40	14:30		★トークショー 11日(水)17:35～ 内田有作さん(内田吐夢次男)
12 (木)	浪花の恋の物語	11:45	16:35(18:20に終映後、入替になります。)		
13 (金)	人生劇場(活弁つき) 警察官(活弁つき)	弁士 澤登翠さん	18:50	20:00(終映22:00)	
14 (土)	たそがれ酒場	9:30	13:15		
15 (日)	妖刀物語 花の吉原百人斬り		11:15	15:00(終映16:50)	
16 (月)	宮本武蔵	9:45	14:35	18:40	
17 (火)	大菩薩峠 第二部	11:50	16:40	20:45(終映22:30)	
18 (水)	飢餓海峡	10:40	14:10	18:25(終映21:40)	

※プリントによっては映像や音声の状態が悪い場合があります。※上映開始30分以降の入場はご遠慮いただいております。

●内田吐夢没後40年回顧上映を支援します！(五十音順、敬称略)2010年7月2日現在 *吐夢回顧上映は今年10月京都でも開催予定
秋田 實(装飾)、有馬稲子(俳優)、淡島千景(俳優)、井川徳道(美術監督)、石森史郎(脚本家)、稲野 實(美術監督)、入江若葉(俳優)、内田有作(内田吐夢次男)、梅津泰子(スクリプター)、江原真二郎(俳優)、遠藤 努(写真家)、丘さとみ(俳優)、尾形伸之介(俳優・殺陣師)、岡本育子(スクリプター・脚本家)、風見章子(俳優)、神谷雅子(京都シネマ代表)、小杉修造(株式会社近代映画社社長)、澤登 翠(活動弁士)、島田元文(俳優・嶋田景一郎)、白井佳夫(映画評論家)、鈴木 朝(鈴木尚之夫人)、鈴木則文(映画監督)、鈴木美潮(読売新聞記者)、高岩 淡(東映株式会社取締役相談役)、高岡正昭(馬担当・スタントマン)、高倉 健(俳優)、高千穂ひづる(俳優)、鳥居元宏(映画監督・脚本家)、中島貞夫(映画監督)、中原ひとみ(俳優)、成澤昌茂(脚本家・映画監督)、長谷川裕見子(俳優)、韓昌祐(株式会社マルハン会長)、平山 亨(プロデューサー)、星美智子(俳優)、松風はる美(俳優・松風利栄子)、松田 豊(株式会社マツダ映画社社長)、水谷八重子(俳優)、宮坂健二(写真家)、村枝賢一(漫画家)、森脇清隆(京都文化博物館映像情報室長)、門田雅成(月形龍之介の孫)、八木真菜(八木保太郎の孫)、雪代敬子(俳優)、渡部保子(映画評論家)



映画監督内田吐夢没後40年回顧

いのちひとこま

「命一コマ」巨匠・内田吐夢の全貌

2010年8月4日(水)～8月11日(水)

17作品一挙上映 ★8月8日(日) 澤登翠 活弁公演：18:50 開演

警察官/人生劇場/限りなき前進/土/血槍富士/たそがれ酒場/黒田騒動/暴れん坊街道/大菩薩峠/どたんば/大菩薩峠 第二部/森と湖のまつり/浪花の恋の物語/酒と女と槍/妖刀物語 花の吉原百人斬り/宮本武蔵/飢餓海峡

★トークゲスト(予定)

風見章子 淡島千景 星美智子 高千穂ひづる 有馬稲子
水谷八重子 入江若葉 尾形伸之介 韓昌祐 内田有作

●記念本「内田吐夢の全貌」(仮称)と記念パンフレットを当館にて発売予定
(記念本内容：内田吐夢のエッセイ・対談・未発表原稿・年譜・フィルモグラフィほか)

内田吐夢/生い立ちから戦後映画界に復帰するまで

1898年(明治31年)4月26日、岡山市で生まれる。本名は内田常次郎。生家は菓子製造業を営み、吐夢は三男だった。中学を二年で中退し、横浜のピアノ製作所で5年間季奉公。成人後飲む打つ買うを覚え、ハマの不良となる。この頃から「トム」と呼ばれる。

1920年(大正9年)、横浜元町に設立された大正活映の撮影所に通う。顧問谷崎潤一郎、監督栗原トーマスと知り合い、俳優兼裏方に。翌年、大正活映の解散後、仲間と京都の牧野教育映画製作所(所長牧野省三)へ行き、俳優を続ける。牧野正唯(=マキノ雅弘)、衣笠貞之助と知り合う。1923年、牧野教育映画を辞め、上京。旅役者の一座に入る。甲府巡業中に関東大震災にあう。この頃は日雇い労働者とする。その後、小笠原プロ、国活巣鴨、特作映画社などで映画製作に参加。

1926年(大正15年)、日活京都大將軍撮影所に俳優兼助監督として入社。1927年(昭和2年)、監督に昇進し、『競争三日間』でデビュー。以後喜劇映画を連作し、「トム・コメディ」と称され評判を得る。キヤメラマン碧川道夫の妹芳子と結婚。翌年、長男誕生。新設の日活京都大森撮影所に移り、脚本家小林正とコンビを組む。その後3年間、話題作を連発。『生ける人形』『汗』『ジャン・バルジャン』『ミス・ニッポン』『仇討選手』など。1932年、日活の経営合理化による人員整理に反対し、監督の村田實、伊藤大輔、田坂具隆、俳優の小杉勇らと日活を退社(七人組脱退)。彼らと新映画社を設立するが、翌年解散。新興キネマで『警察官』などを撮る。1935年、日活多摩川撮影所に移り、脚本家八木保太郎と組み、『人生劇場』を撮る。日活多摩川の現代劇黄金期にあつて吐夢も次々と問題作を発表。『生命の冠』『裸の町』『限りなき前進』『土』など。昭和十年代半ばより戦争が激化、映画製作も統制が厳しく困難に。

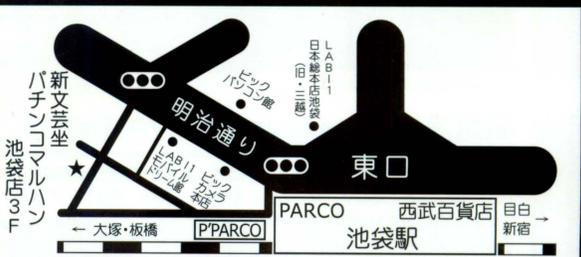
1940年、大作『歴史』(三部作)を撮るが興行不振で、日活を退社。1941年、田坂具隆、小杉勇らと興亜映画社を設立。翌年『鳥居強右衛門』を撮った後、国策映画『陸戦の華』の準備にかかるが挫折。

1945年、満州に渡り、満州映画協会(満映)の参与となる。終戦後も残留。以後、満映の仲間と行動を共にする。帰国者が増える中、吐夢は新生中国に残り続け、東北電影製片廠(旧満映)で指導にあたる。胃と肺の病状悪化。残留8年、1953年10月帰国。舞鶴で療養後、東京の国立第一病院に入院。1954年春に退院。秋より映画『血槍富士』の準備に入る。

「アノチカラ」割引

8月7日(土)：誕生日が内田吐夢監督と同じ4月26日の方は、777円！(要証明)

【当日料金】(2本立て上映。入れ替えなし)
一般：1300円 学生：1200円
友の会・シニア・身障者：1000円
ラスト1本：800円(8/8の活弁つき上映と、8/11は除く)
【前売券】1回券1100円 3回券3000円
(1回券は8月3日(火)、3回券は8月7日(土)までの販売)



感動はスクリーンから



新文芸坐

豊島区東池袋1-43-5 マルハン池袋ビル3F
池袋東口徒歩3分 TEL:03-3971-9422
<http://www.shin-bungeiza.com>

感動はスクリーンから



新文芸坐

豊島区東池袋1-43-5 マルハン池袋ビル3F
池袋東口徒歩3分 TEL:03-3971-9422
<http://www.shin-bungeiza.com>

映画監督内田吐夢没後 40 年回顧

「命一コマ」巨匠・内田吐夢の全貌

今年 2010 年は、映画監督内田吐夢の没後 40 年にあたる。内田吐夢は 1970 年 8 月 7 日に死去、享年 72 歳であった。吐夢の日本映画界における業績はどんなに称えても称え尽くせるものでなく、また今後も閑却すべきではない。日本映画を愛する者の間だけでなく、日本文化を尊重する国民全体に彼の偉大さは伝承していかなければならない。また、そのために、吐夢の遺した映画を上映することは、物質主義に墮した現代社会に対し、日本人として、見失いかけた本質は何かと問い、この国のあり方に警鐘を鳴らす意義があると考えている。



『大菩薩峠 第二部』のロケにて (1958 年)

土 (1939/ 日活多摩川) 白黒・スタンダード/ ドイツ語字幕版 117 分

〔原〕長塚節〔脚〕八木隆一郎、北村勉〔撮〕碧川道夫〔美〕堀保治〔音〕乗松明宏
〔出〕小杉勇、風見章子、山本嘉一、ドングリ坊や、村田知栄子、見明凡太郎



長塚節の長編小説「土」の映画化に取り組むこと 3 年、日活本社の製作中止命令にも屈せず、撮影を断行、遂に完成させた。貧農一家の地べたを這うような生活を活写したリアリズムの極致、吐夢畢生の大作である。今回上映するフィルムは、東ドイツとロシアで発見された 2 本を繋いだもの。残念ながらラスト約 10 分は欠落。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

どたんば (1957/ 東映東京) 白黒・シネスコ 109 分

〔原〕菊島隆三〔脚〕橋本忍、内田吐夢〔撮〕藤井静〔美〕森幹男〔音〕小杉太郎
〔出〕江原真二郎、中村雅子、波島進、岡田英次、加藤嘉、花沢徳衛、志村喬



零細炭鉱の落盤浸水で 5 人の坑夫が閉じ込められる。救出は困難をきわめ、二日三日と過ぎ、絶望かと思われた時…。原作は菊島隆三のテレビドラマで、救出作業をめぐる群集劇。吐夢は、プロセスを逐一実写する得意の手法を取り入れ、リアリティを際立たせた。経営主、朝鮮人労働者、願人坊主などの扱い方は、いかにも吐夢流。

©1957 東映

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

酒と女と槍 (1960/ 東映京都) カラー・シネスコ 99 分

〔原〕海音寺潮五郎〔脚〕井手雅人〔撮〕鷺元也〔美〕鈴木孝俊〔音〕小杉太郎
〔出〕大友柳太郎、淡島千景、花園ひろみ、黒川弥太郎、原健策、片岡千恵蔵



策謀を弄し権勢におもねる戦乱の世に頑固一徹、己の信念を貫いた武士の生き様を描く。槍一筋の武勇を尊び、酒を好み女を愛する豪快な主人公を大友が熟演。関が原のラストシーン、馬に跨り槍を振り回し、敵味方もなく勇猛果敢に突進していく男の雄姿を、吐夢は迫真のロングショットで捉える。そのスペクタクルは空前絶後。

©1960 東映

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

黒田騒動 (1956/ 東映京都) 白黒・スタンダード 108 分

〔原〕北條秀司〔脚〕高岩肇〔撮〕吉田貞次〔美〕鈴木孝俊〔音〕小杉太郎
〔出〕片岡千恵蔵、大友柳太郎、高千穂ひづる、片岡栄二郎、南原伸二、薄田研二



徳川幕府初期、筑前黒田藩に起ったお家騒動。藩主の覚えめでたき側用人と愛妾が結び、策謀を企てる。幕府の咎を受け存亡の危機に瀕した黒田藩を救うため家老栗山大膳は窮余の策を講じる。吐夢は、策謀の裏にキリシタンの暗躍があったという解釈を加え、これを単なる権力争いではなく民衆革命の視点で捉えた。重厚な大作。

©1956 東映

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

森と湖のまつり (1958/ 東映東京) カラー・シネスコ 113 分

〔原〕武田泰淳〔脚〕植草圭之助〔撮〕西川庄衛〔美〕森幹男〔音〕小杉太郎
〔出〕高倉健、香川京子、北沢彪、藤里まゆみ、中原ひとみ、有馬稲子、三國連太郎



アイヌは、滅びゆく民族なのか。民族の自立をいかに保持するか。武田泰淳の問題作を吐夢が果敢にも映画化。長期の北海道ロケを敢行し、雄大な自然の中で、アイヌと日本人、男と女の対決を描く。近代化と原始性、純血と混血など民族に内在する矛盾を、吐夢は新たな生命の創造によって融合しようとした。若き高倉健が熟演。

©1958 東映

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

人生劇場 (1936/ 日活多摩川) 白黒・スタンダード/ 無声短縮版 47 分

〔原〕尾崎士郎〔脚〕亀屋原 徳、八木保太郎〔撮〕横田達之
〔出〕小杉勇、村田知栄子、黒田記代、見明凡太郎、潮万太郎、山本礼三郎



日活多摩川撮影所でメガフォンを取った日活復帰第一作。脚本家八木保太郎と初コンビを組み、「人生劇場・青春篇」を本格的トーキーで映画化。これが大ヒットし、吐夢は日活現代劇に不動の地位を築く。小杉の二役（飄太郎と飄吉）、小杉・村田のラブシーン、礼三郎の吉良常など、一場面・名演技が、残存する無声短縮版フィルムでは殆んど見られない。

関マツタ映画社所蔵フィルム

たそがれ酒場 (1955/ 新東宝) 白黒・スタンダード 94 分

〔脚〕灘千造〔撮〕西垣六郎〔美〕伊藤寿一〔音〕芥川也寸志〔出〕小杉勇、宮原卓也、小野比呂志、津島恵子、野添ひとみ、江川宇礼雄、丹波哲郎、多々良純、加東大介



復帰第二作。大衆酒場のシーンだけから成る脚本を得て、吐夢は新東宝の低予算を逆手に、40 坪のセット一つで、夕方から夜に起る人間模様をグランドホテル形式で描いた。酒場は老若男女様々な人間の過去と未来が交錯する舞台。出演者に本物のバリトン歌手と音楽教授を使い、旧友小杉勇と江川宇礼雄も参加し吐夢を支えた。

©1955 国際放映

宮本武蔵 (1961/ 東映京都) カラー・シネスコ 110 分

〔原〕吉川英治〔脚〕成澤昌茂、鈴木尚之〔撮〕坪井誠〔美〕鈴木孝俊〔音〕伊福部昭
〔出〕中村錦之助、入江若葉、三國連太郎、木村功、丘さとみ、木暮実千代



吉川「武蔵」の再映画化、主役は東映のエース錦之助。監督を指名された吐夢は、一年一作、5 年で完結という条件で受ける。彼の打撃は的中し、シリーズは衰退する東映時代劇の屋台骨を支えるヒット作に。第一部で錦之助は関が原の敗残兵タケゾウを熟演。新人入江若葉の起用も当たり、ここから晩年の吐夢の青春復帰が始まる。

©1961 東映

飢餓海峡 (1964 東映東京) 白黒・シネスコ 183 分

〔原〕水上勉〔脚〕鈴木尚之〔撮〕仲沢半次郎〔美〕森幹男〔音〕富田勲
〔出〕三國連太郎、左幸子、風見章子、加藤嘉、藤田進、高倉健、伴淳三郎



『武蔵』四部の後、吐夢は 6 年ぶりの現代劇、「飢餓海峡」の映画化に燃え尽きぬ創作意欲を注ぐ。戦後混乱期、強盗殺人に関わった北海道の下層労働者、逃亡中の彼に恵みを受ける下北の娼婦、事件を捜索する刑事。運命の糸は 10 年を経て三者をたぐり寄せる。吐夢晩年の傑作は、正に貧困日本の戦後史であり、高度成長期の日本に警鐘を鳴らす問題作であった。

©1964 東映

制作・文責：藤井秀男 協力：内田有作、石割平、町田浩章、円尾敏郎

浪花の恋の物語 (1959/ 東映京都) カラー・シネスコ 105 分

〔原〕近松門左衛門〔脚〕成澤昌茂〔撮〕坪井誠〔美〕鈴木孝俊〔音〕富永三郎
〔出〕中村錦之助、有馬稲子、千秋実、花園ひろみ、浪花千栄子、田中絹代、片岡千恵蔵



吐夢にとっては異色の、若い男女の心中物。飛脚問屋の若旦那忠兵衛を錦之助、遊女梅川を有馬が演じることで、吐夢のチャレンジ精神に火がついたのであろう。近松原作の添い遂げられぬ恋の悲劇を社会的問題意識から捉え、そのリアリズムを最後は虚構化された様式美に昇華した。二人の道行の場面は夢幻のように美しく、圧巻。

©1959 東映

警察官 (1933/ 新興キネマ) 白黒・スタンダード/ 無声 121 分

〔原〕竹田敏彦〔脚〕山内英三〔撮〕坂坂操一〔美〕水谷浩司
〔出〕中野英治、小杉勇、森静子、松本泰輔、桂珠子、村田宏寿、荒木忍



日活京都退社後、苦難時代にあった吐夢が新興キネマに身を寄せた放ったヒット作。実際に起った大森ギャング事件（「赤色テロ」と喧伝）を題材に、内務省・警視庁主導の官憲映画を、吐夢はヒューマンな警察官物語に仕上げた。京浜地帯でのロケ撮影と、探照灯を使った夜中のアクションシーンは見逃せない。小杉と中野が熟演。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

妖刀物語 花の吉原百人斬り (1960/ 東映京都) カラー・シネスコ 109 分

〔脚〕依田義賢〔撮〕吉田貞次〔美〕鈴木孝俊〔音〕望月太明吉、中本敏生
〔出〕片岡千恵蔵、水谷良重、木村功、千原しのぶ、片岡栄二郎、三島雅夫



歌舞伎に題材を取った吐夢映画の三作目。脚本は依田義賢。吉原の若い遊女に翻弄される愚直な中年商人の破滅ストーリー。華やかな社会の舞台裏に渦巻く人間のエゴと強欲を描いたカリカチュアでもある。女が因太く逞しいのに対し、男はなんとだらしのないのか！男の怒りが爆発するラストシーンは、絢爛にして凄絶である。

©1960 東映

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

大菩薩峠 第二部 (1958/ 東映京都) カラー・シネスコ 105 分

〔原〕中里介山〔脚〕猪俣勝人、柴英三郎〔撮〕三木滋人〔美〕鈴木孝俊〔音〕深井史郎
〔出〕片岡千恵蔵、中村錦之助、長谷川裕見子、星美智子、東千代之介、月形龍之介



盲目になった龍之助は、次々と三人の女達に付き随われながらも、孤独にさまよひ続ける。心の奥では生きるよすがを求めずにはいられない。無明地獄に落ちた龍之助は、女からの愛とわが子への思慕で自らを慰めるが、心の安住は得られなかった。吐夢は、最後に地藏信仰によって救いの手を差し伸べる。完結篇は 9 月の月形特集で。

©1958 東映



京都鳴滝の内田吐夢宅にて、吐夢地藏の移転式 (1959 年)

8月4日(水)

限りなき前進 (1937/ 日活多摩川) 白黒・スタンダード 78 分

〔原〕小津安二郎〔脚〕八木保太郎〔撮〕碧川道夫〔美〕堀保治〔音〕山田栄一
〔出〕小杉勇、轟夕起子、江川宇礼雄、滝花久子、片山明彦、見明凡太郎



小津と吐夢。二人は日本映画監督協会設立以来の飲み友達で、作風は真反対だが互いに認め合う好敵手であった。二人で映画を！吐夢は、小津原作の松竹小市民ドラマを八木の脚色で重厚な日活現代劇に仕立てた。定年が迫り頭が変になったサラリーマンを、悲喜劇的ではなくシリアスに描いた。上映フィルムは物議を醸した再編集版。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

血槍富士 (1955/ 東映京都) 白黒・スタンダード 94 分

〔原〕井上金太郎〔脚〕八尋不二、民門敏雄、三村伸太郎〔撮〕吉田貞次〔美〕鈴木孝俊〔音〕小杉太郎
〔出〕片岡千恵蔵、植木基晴、喜多川千鶴、島田照夫、加東大介、月形龍之介



戦後復帰第一作。吐夢を知る映画人達の支援を得、親友井上金太郎の一周忌に彼の名作をリメイク。道中時代劇に吐夢独特の諷刺と人間愛を盛り込み、クライマックスの死闘で観客の度肝を抜いた。「海ゆかば」の音楽が流れる中、骨箱を抱いた主人公が、女子供を後に残し一人黙々と歩いて行く姿は、吐夢自身の投影に他ならない。

©1955 東映

大菩薩峠 (1957/ 東映京都) カラー・シネスコ 119 分

〔原〕中里介山〔脚〕猪俣勝人、柴英三郎〔撮〕三木滋人〔美〕鈴木孝俊〔音〕深井史郎
〔出〕片岡千恵蔵、中村錦之助、長谷川裕見子、丘さとみ、大河内傳次郎、月形龍之介



「大菩薩峠」のアンチヒーロー机龍之助をどう描くか。龍之助は異常な殺人鬼である。巡礼を殺し、試合の相手を殺し、その許婚を奪って男子を産ませ、無類の果てに……女を殺し、わが子を捨て、流転の運命をたどっていく。この狂気の罪人のさまよえる魂を救済することができるのか。第一部で吐夢のテーマが顕在化してくる。

©1957 東映

暴れん坊街道 (1957/ 東映京都) 白黒・スタンダード 95 分

〔原〕近松門左衛門〔脚〕依田義賢〔撮〕吉田貞次〔美〕鈴木孝俊〔音〕深井史郎
〔出〕佐野周二、山田五十鈴、植木基晴、千原しのぶ、薄田研二、進藤英太郎



脚本家依田義賢と組み、近松物に初挑戦した。溝口健二亡き後、吐夢が名作「重の井の子別れ」をどう描くか。吐夢は、古い車袋に新しい酒を入れるが如く、これを現実味あふれる見事なヒューマン・ドラマに仕立てた。血と涙と汗のある人間同士が心を通い合せるドラマ。この映画は、吐夢の演出術が結実した隠れたる傑作である。

©1957 東映

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム

8月5日(木)

8月6日(金)

8月7日(土)

8月8日(日)

8月9日(月)

8月10日(火)

8月11日(水)